

Lecture series

第7回

20世紀平壤の夢

—建築からアジアを読みとく—

谷川 竜一（専門・近代建築史）
京都大学地域研究統合情報センター 助教

本レクチャーでは、北朝鮮の「いま」を構成する、壮麗な宮殿のような建築から、東欧や旧ソ連の影響を受けた建築、果ては日本が残してきた建築まで、様々な建築群を読み解く。映像やスライドを用いながら、建築と歴史の面白さを伝えたい。

2015年5月20日（水）15:00～16:15
京都大学附属図書館1階ラーニング・commons
（京都大学学部生・院生対象）

問合せ先：京都大学附属図書館 参考調査掛

TEL:075-753-2636 / e-mail:ref@kulib.kyoto-u.ac.jp

CIAS



Learning Commons

20TH CENTURY PYONGYANG DREAMS

20世紀平壤の夢

—建築からアジアを読みとく—

人々は建築に夢を賭ける。あんな暮らしがしたい、こんな社会を造りたい・・・多様な願望が、建築という形となって現れるのだ。そうだとすれば、様々な地域の建築を読み解くことは、その地を生き残った人々の夢や願いを紐解くことに等しい。加えて、過去の人々の夢が宿る建築は、その時々「いま」を構成する現実でもある。現在も含めた歴史の多様な場で、建築はどのような力を揮い、いかなる影響を与えてきたのか。

このレクチャーでは、ほとんど知られていない北朝鮮の建築を取り上げ、その来歴を紹介する。私の専門は建築史学であり、特に朝鮮半島を主な研究対象地として、日本とアジアの関係史を建築から考察してきた。今回は、壮麗な宮殿のような建築から、東欧や旧ソ連の影響を受けた建築、果ては帝国日本が残してきた建築まで（いまの日本人の多くが忘れてきているが、20世紀前半の北朝鮮地域は日本の植民地であり、日本人たちもその都市建設を行っていたのだ）、幅広く見渡しながら、北朝鮮の人々が生きる社会の「いま」を構成する建築群を読み解く。映像やスライドを用いながら、建築と歴史の面白さを伝えたい。

2015年5月20日（水）

15:00～16:15

京都大学附属図書館1階

ラーニング・コモンズ

（京都大学学部生・院生対象）



京都大学
地域研究統合情報センター
助教・谷川竜一
奈良県出身、京都大学工学部
建築学科卒業後、東京大学大
学院にて近代建築史を学び、
修士・博士取得。大学院以降、
東アジアや東南アジアの様々
な都市で文化遺産・資産の調
査を行ってきました。



普通江でカヌーを漕ぐ人と柳京ホテル



玉流橋から見たメーデースタジアム



平壤の中心広場である金日成広場。正面奥は、人民大学習堂（図書館）

植民地時代にできた美しい公会堂（右下）
平壤の朝の風景（下）



■ ラーニング・コモンズ「レクチャーシリーズ」

京都大学の個性豊かな先生をお招きして、ご専門のお話をさせていただくシリーズです。先生方のバックグラウンドも含め、授業では聞けない(?) ちょっとユニークな、ここだけのお話が飛び出すかもしれません。

会場は、附属図書館1階に新しくオープンした、ラーニング・コモンズです。スピーカーも参加者も、自由に集って語りあえる雰囲気味わってみませんか? (もちろん無料・参加自由)



Lecture series

問合先：京都大学附属図書館 参考調査掛

TEL:075-753-2636

e-mail:ref@kulib.kyoto-u.ac.jp